

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）ニホンダイガク	フリガナ）ショウガクブ	フリガナ）イワタゼミナール
日本大学	商学部	岩田ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）チームウッジョブ	フリガナ）ササモト ハルカ	5	無
チーム Woodjob!	笹本 遥		

研究テーマ（発表タイトル）

国産間伐材の利用促進～ビバ！アド箸プロジェクト～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

チームのメンバーが1つの目標に対して議論を交わすことで互いの考えを知ることができ、結束を深めるのを目的とする。私たちが普段、日常生活で当たり前のように使っている木製品に関わる問題を認識し、実際にアド箸という提案による研究成果を発表する。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

世界では木を残すことが森林問題の解決とされているが、国土の約66%の森林を有する日本では、森林が余っている状況にある。この問題の背景は、大きく分けて3つあると考えられる。1つ目に外国産の輸入自由化、2つ目に林業の衰退、3つ目に木材需要の不足がある。

1つ目の外国産の木材については、日本の木材自給率は平成27年に26年ぶりに31.2%に回復したが、過去最低だった平成12年には18.2%と、森林面積が7割近くありながら、供給されている木材は輸入された外国産という現状が存在している。

2つ目の林業の衰退は、国産木材の価格低迷により収益が見込みづらくなり、赤字になりやすくなったことで林業は儲からない職業とされてしまったことが要因として挙げられる。

3つ目として、日本には木材需要が限られた市場でしかなく需要が少ない、また仮に木材需要が存在しても外国産木材ばかりが使われてしまうことなどが挙げられる。

森林が放置されてしまう3つの問題の背景について触れたが、2つ目の林業問題は長い時間を要するが徐々に改善の見込みがあると言える。1つ目と3つ目の問題点に関しては、国産材を使う流れと木材需要を高めるために新たな価値付けなどの努力が必要である。

3. 研究テーマの課題

樹木にとって間伐とは非常に重要な作業である。しかし現在、この間伐作業が適切に行われておらず、森林が本来の機能を果たすことができていない。現在、外国産木材が多く輸入されていることや、成長途中で伐採されることで木が細いため建築材には向かず、利用用途が限られるため国産間伐材の放置率が非常に高い。このようなことが課題としてあげられる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

この国産間伐材の問題点を解決するためにまずは、需要の創出が必要だと考えた。国産間伐材の利用促進方法として割り箸の活用を提案する。割り箸を選んだ理由として、コンビニ、スーパーを中心に設置可能な場所が多い、利用者層を選ばない、毎日一定の数が消費されることが挙げられる。また、しかしながら、国産材の原材料や生産コストが高く、生産・小売業者側が利用したがることから日本の割り箸のほとんどの 97%は輸入材が占めている。このような割り箸のコストが高くなってしまいう問題点に対して、私達はコストを賄いながら国産間伐材の割り箸を利用してもらう方法を解決策としてあげる。

その内容としては、国産間伐材を使用した割り箸を大学の学生食堂に設置する。現在学生食堂に設置してある外国産の割り箸と比較すると国産間伐材はコストの負担が大きいので、箸袋に近隣商店街の広告及びクーポンを記載し、国産間伐材の利用と同時に近隣商店街との関係を築くことを目的とする。また国産間伐材に関する認知を広げるため紙媒体及び SNS を利用した広報活動も行う。

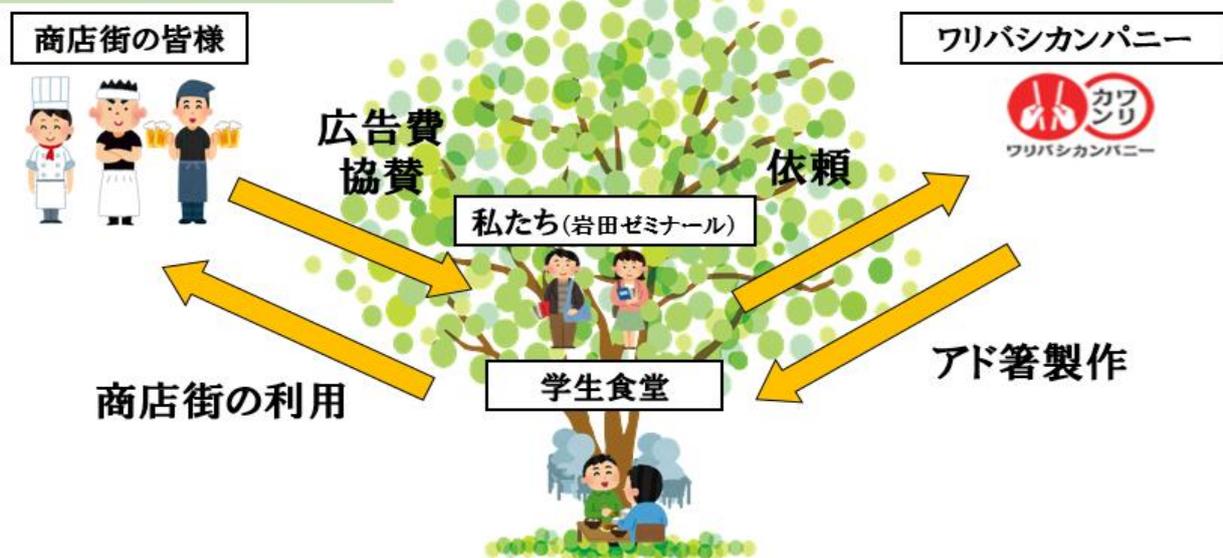
5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

まず、広告費として協賛を頂くために、商店街の 53 店舗へ直接訪問し、このプロジェクトの概要など何度も話し合いを重ね、12 店舗（飲食店 7 店舗は割引クーポン付き）の協賛を頂くことができた。その後今回アド箸の制作を委託したワリバシカンパニー株式会社様へ訪問し、デザインを私たちが作成し発注するという流れとなった。

9 月 16 日より学生食堂へ導入を開始した。実施することで森林問題への解決に確実に繋がったと考える。

以下の図は今回の提案内容の流れである。

アド箸導入までの流れ



6. 結果や今後の取り組み

こうした私たちの取り組みにより、1 日 500 本、約半年で 10000 本の箸の利用が見込める。

私たちは今後、これを 1 つの地域と提携した間伐材利用促進のビジネスモデルとし、新たな協賛企業の獲得、また環境問題に理解のある世田谷区みどりのみず政策担当部みどり政策課の方と協力をし、更に規模を広げた間伐材の利用促進をしようと考えている。加えて、私たちの活動によって、多くの人に森林の活性化はもちろん、森林に対する興味や知識が備わることを期待する。そして森林大国である日本の中で、この豊かな資源との向き合い方を考えること、更なる森林の発展につながることを願う。

7. 参考文献

・農林水産省「平成 26 年 林業産出額及び生産林業所得」平成 28 年 2 月 19 日

・林野庁「森林資源の現況」平成 24 年 3 月 31 日

・(森林・林業学習館 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

http://www.shinrin-ringyou.com/ringyou/kanbatu_kankyou.php

・(ワリバシカンパニー 平成 28 年 6 月 14 日最終閲覧)

<http://warebashi.com/>

・(間伐材利用の基本的問題点 平成 28 年 6 月 13 日最終閲覧)

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/jyomoya3.html>

・(銀座スエヒロカフェテリアグループ 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

<http://www.ginzasuehiro.co.jp/>

・(森林・林業学習館「日本の森林面積と森林率」 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

http://www.shinrin-ringyou.com/forest_japan/menseki_japan.php

・(林野庁「国有林の歴史・現状と今後の課題」 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/rinsei/singikai/pdf/110208k1.pdf>

・(林野庁「我が国の木材需給率の動向」 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/25hakusyo_h/all/a47.html

・(間伐材の放置状況および放置材の流通対策 奈良県産材の流通と利用に関するアンケート調査結果 平成 28 年 6 月 14 日最終閲覧)

<http://www.nararinshi.pref.nara.jp/kenpou/no.35/no.35i.pdf#search='6月14日>

・(林野庁「間伐材等利用の促進」 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

http://www.rinya.maff.go.jp/j/kanbatu/suisin/con_1_3.html

・(地球温暖化白書 割り箸 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

<http://www.glwwp.com/main/chopsticks.html>

・(森林・林業学習館「割り箸とその現状」 平成 28 年 6 月 12 日最終閲覧)

<http://www.shinrin-ringyou.com/topics/waribashi.php>

・環境庁「2008 年循環型社会形成に向けた意識・行動の変化アンケート」

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。